「新学習指導要領」の趣旨を活かした、令和型単元計画と英語科学習指導案

日　時：令和８年１０月７日（水）５校時
学校名：神戸市立太山寺中学校
対　象：３年５組３５名
会　場：３年５組教室
指導者：後藤田　幸奈
Fellores Juanito Facto

１．単元について

単元（題材）名	Lesson5 “Translating Culture”（NEW CROWN English Series3） 三省堂
学習指導要領に関連する領域別目標	1　目標（３）話すこと（やりとり） ア　関心のある事項について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。 ２　目標（４）話すこと（発表） ア　関心のある事項について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。 イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。
単元（題材）の目標	(1) 既習の表現を用いて、事実や考え、気持ちなどを伝えあうことができる。 【知識・技能】 (2) ”What is my happiness?”というテーマについて、新しい ALT の先生や OTE、友達などの周囲の人々の「自分にとっての幸せ」について学びながら、自分の考えをより深め、整理し、ALT や友達、OTE に伝えることができる。 【思考力・判断力・表現力】 ＊当初は「海外の人に読んでもらうために、４コマ漫画について、日本の文化や習慣が伝わるような説明をつけ加えて、翻訳することができる。」というように目標を設定していたが、Lesson8 で学習予定の「自分について語る」という単元目標につながらず、自分ごとの内容にならなかったので、上記の内容に変更した。 (3) 相手にわかりやすく伝わるように、事実や考えを伝え合おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

生徒の実態	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	既習の文法事項を理解し、それらを使って表現することができる生徒が増えてきた。しかし、自由に自己表現することができるまでにはまだ至っていない生徒も多い。単語を羅列するなど、文の構造を理解しないまま表現しようとする生徒もいる。	Q&A practice や基本文トレーニングの内容を使って自分の意見や理由を述べる生徒が増えてきた。しかし、話に沿った質問をする質問力や、質問に対して具体的に答えたり、聞き返したりする力を身に付けることが今後の課題である。	個人やグループでのプレゼンテーションに意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、自分の考えや話すことに自信が持てず、粘り強く取り組むことができない生徒もいる。

単元（題材）設定の理由	
	(1) 生徒観 本学級は教員や生徒同士のコミュニケーションが活発な学級である。英語の授業では、英語による活動に積極的に参加し、自分の考えや気持ちを伝えようとするとともに、友達の話を理解しようとする姿勢が見られる。 毎時間の冒頭で行う Q&A 活動や基本文トレーニングでは、ペアで協力しながら意欲的に取り組む様子が伺える。 3 年生 1 学期には、「海外の人におすすすめする日本の曲」や「自分がこれまでに影響を受けた人やもの」をテーマとしたプレゼンテーション活動に取り組んだ。事後アンケートでは、「使える表現の幅が広がった」「伝えられる内容が増えて嬉しかった」「外国の人ともっとコミュニケーションをとりたい」といった前向きな回答が多く見られた。また、1 年生から継続してスピーチやプレゼンテーション活動に取り組んできたことで、自分の考えを相手に伝えることへの自信を少しずつ高めている。さらに、3 年間実施してきた KICP では、ALT とのやりとりにも積極的に取り組み、即興的なコミュニケーションにも慣れてきている。一方で、英語で即座に質問したりすることに難しさを感じている生徒も見られる。また、表現したい内容があっても、語彙や表現の不足から会話が途切れてしまう場面もある。そのため、帯活動を中心としたトレーニングを継続し、既習表現を繰り返し活用することで、自信をもってやりとりできる力を育成していく必要がある。 本学級の課題は、既習表現を活用しながら質問を重ね、会話を継続・発展させる力を身に付けることである。すでに Lesson8 では「自分の将来」をテーマに表現する学習を行うことを伝えていることから、本単元ではその内容とも関連付け、自分の考えを相手に伝えるだけでなく、相手の考えを引き出しながら対話を深める活動へと発展させたい。 生徒の素直さや協働的に学ぶ姿勢を活かしながら、入学試験を見据えた言語活動も取り入れ、実際のコミュニケーション場面で活用できる英語力の育成を目指したい。

⑵ 教材観

本単元は日本の文化の１つである「漫画」について取り上げ、日本の漫画が海外ではどのようにその国の言葉で表現されているのかが日本の文化と共に紹介されており、単元最後の Goal Activity では４コマ漫画を英語に翻訳する内容となっている。しかし題材に関しては、最終単元 Lesson8「For our Future」につなげるため、これまでもそれぞれの単元の学習内容を自分ごとに置き替えるため、「今の自分は誰に影響を受け、これからどうして生きていきたいか」(Lesson3)や「将来自分はどんな環境で生きていきたいか（都会？田舎？それとも？）」(Lesso4)などのテーマでプレゼンテーションやディスカッションを重ねてきた。本単元でも自分ごとの題材にするため、Small Talk の topic を”What is good manga for people abroad?”から”What is my happiness ?”に置き替えて行う。

そのため、まずは Sence2 の本文の中に出てくる漫画の話から「自分が幸せだと感じる時はどんな時？」と考えるところからスタートする。そこからマンダラートやマッピングを使いながら自分の考えを整理し、友達やＡＬＴに伝える。TT の授業では、ワン先生の「幸せを感じる時」をクラスで共有し、ワン先生にとっての「幸せ」を知る。「幸せ」というキーワードをもとに「自分たちの幸せって何だろう？」というテーマでディスカッションを数回行う。「お金」「家族」「友達」「仕事」など、それぞれの考えた幸せに関するキーワードが出てくると思われるが、「自分だけの幸せだけでなく、自分の大切な人にも同じように幸せになってほしい」という思いを持ったり、周囲の意見を聞くことで自分と異なる視点に気付いたりすることで、それがより他者への理解につながることに気付かせたい。また、本単元での学びが最終単元 Lesson8 で「自分について語る」際に活かされることを期待したい。

⑶ 指導観

これまで、教科書の本文理解、文法理解中心の活動を通した授業を行っていた。しかし、本文の内容や文法を理解していたとしても、子どもたちがそれを使って英語でやり取りをしたり、自分の意見が述べたり、ALT と即興で会話をしたり、すらすらと音読ができたり、といった技能が身についていないことが大きな課題であることに気づき、授業スタイルを一変した。これまでの「文法ありき」の授業を以下のように変更した。

① 単元の文法は帯活動の基本文トレーニングを徹底することで身につける。同時に Q&A トレーニングで質問力・応答力を鍛える。

＜基本文トレーニング＞

・ペアで基本文ワークシートを使って、日本語→英語のトレーニングを行う。

・ワークシートを半分に折り、英語は見ない指導を行う。

＜Q&A トレーニング＞

・ペアで Q&A ワークシートを使って、１人は質問をし、もう１人は答える。

・答える際には、回答だけでなく１文を付け加え、お互いに質問と回答を続けることを目指す。

・答える側はワークシートを半分に折り、模範解答は見ない指導を行う。

【言語使用を意識した出力・即興力、質問力の育成】

② デジタル教科書を効果的に使用し、音読トレーニング（リピート・個人練習・オーバーラッピング・シャドーイングなど）に積極的に取り組ませる。授業開始前（本校が指導する２分前着席時）から各自音読練習を実施する。授業前の帯活動や自宅での練習を経て、単元終了時に音読テストを行う。

【表現力の育成と英文の定着】

③ ペアチャットを充実させるため、基本文中の名詞を取り上げ相手に質問しながらチャット活動を行う。

Ex) A: It is impressive to see beautiful nature. （基本文）
B: Where do you go to enjoy nature ?

【即興のやり取りで質問力・応答力・発話力の育成】

④ 授業前に単元で行うパフォーマンステストやライティング課題などのルーブリックを配布し、子どもたちが向かう単元ゴールを初めに提示する。プレゼンテーションやスピーチなどの発表を行う場合は、必ず中間指導を入れる。（中間指導のふりかえり→本番への作戦タイム→本番）

【表現力の育成と英文の定着、パフォーマンス力の向上】

⑤ 思考ツール（マンダラート、マッピング）を積極的に活用する。自分が言いたいことや考えを整理するために使用し、言語活動の活発化を目指す。

【発話力の育成】

⑥ 振り返りシートを活用する。その時間にできるようになったこと等の学びをふりかえり、毎時のゴールを明確にすることで、見通しをもって取り組めるようにしている。

〔指導の工夫と子どもの変化〕

授業スタイルを変更したことにより、Lesson8 の単元ゴールである「For our future」が子どもたちにとってより明確に、自分ごととしてとらえられるようになった。現在も最終ゴールに向かって授業展開を行っている。教科書の内容を子どもたちの現状や今置かれている状況と照らし合わせ、自分ごととなるように単元目標を置き替えている。基本文ワークシートや Q&A ワークシートは、教科書の基本文をベースに作成している（文法事項はすべて基本文に取り入れている）。また、文法の解説は単元の最後に行っている（入試対策も含む）。

これまで文法中心の授業を行っていたため、この授業の一変は子どもたちの不安につながったことも事実ではあるが、帯活動トレーニングを積極的に行い、それを使った言語活動を続けた結果、自信をもって英語が話せる子どもが増えた。友達とペアで行うことが子ども同士の教え合いにもつながり、これまで英語が苦手だった子どもも帯活動トレーニングを積極的に行うようになり、笑顔が見られるようになった。テストではパフォーマンス活動に関連した問題を出題し、ライティング問題では多くの生徒が１５点満点中８～１０点以上をとる結果につながった。また、長文読解がわかるようになったという生徒も多い。

1 学期に行った KICP では、子どもたちが「自分が影響をうけた人やもの」についてＡＬＴに語る場面があったが、どの子どもも表情が生き生きとしていたのが印象的であった。言語活動が「自分」にかかわった時、子どもたちのやりがいが頂点に達するのだと実感した。

単元（題材）の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	＜知識＞ ペア活動やディスカッション、まとめのライティングで使用する英語の語句や表現（関係代名詞〔主格〕を含む）を理解している。 ＜技能＞ 既習事項を活用し、「自分の幸せ」について述べることができる。また、自分の考えを英文で書くことができる。	ALT の先生や友達、OTE とのやりとりを通して、「自分にとって何が幸せなのか」について自分の考えを整理しながら、理由を添えて表現することができる。	単元のゴールをきちんと理解し、「自分にとって何が幸せなのか」について積極的に考え、自分の考えを整理して表現しようとしている。 ペアワークやグループワークにおける、友達の良い発表ややりとりを参考にしながら、自分の英語に取り入れようとしている。また、ALT の先生などの周囲のアドバイスをもとに、より積極的に自分の英語の改善をしようとしている。

２．単元の指導と評価の計画（全 11 時間）

時間	学習内容		【評価の観点】 評価規準	学習課題（■）と主な学習（言語）活動（○） 単元の中で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現を目指す主な場面
	帯活動	内容		
第 11 時	帯活動なし	単元テスト パフォーマンステスト	【書くこと】 既習文法を理解し、問題を解くことができている。 【話すこと】 既習の表現を使って、自分の幸せについて話すことができている。	■　本単元で習った表現を確認する。 ④振り返り ③次の単元の基本文ワークシートを配布する。 ②パフォーマンステスト ①単元テスト 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第 10 時	帯活動なし	音読テスト	【話すこと】 p. 57 か p. 59 のどちらかを選び、４０秒で音読をすることができる。	■　場面や内容、登場人物を意識して４０秒で音読をする。 ■　「自分にとっての幸せ」について自分の考えを具体的な理由を添えて書く。 ③振り返り ②ライティング

			【書くこと】 「自分にとっての幸せ」について自分の考えを具体的な理由を添えて書くことができる。	①音読テスト 一度もつまらずに、間違えずに読むことが目標。つまった時点、間違えた時点で終了とする。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第9時	基本文トレーニング （Lessson5） Q&A practice	Lesson5 文法の整理	【書くこと】 単元を通して学んだ関係代名詞（主格）の使い方を整理し、使うことができる。	■ 教科書やワークシートなどを使い、表現の仕方の理解を深める。 ④振り返り ③文法の復習 ②Q&A practice ①基本文トレーニング 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第8時	帯活動なし	**〈本発表〉** 単元を通して学んだことを活かし、「自分にとっての幸せ」について発表する。終われば、聞いている生徒からの質疑応答を行う。	【話すこと（発表）】 前時までの課題を活かし、自分の考えを整理し、マッピングをもとに既習の表現を用いて伝えることができる。	■ 自分の意見や考えが伝わるように工夫しながら、クラスで発表する。 ⑤振り返り 単元前と単元後を比較して、何ができるようになったのか、次の課題は何かをワークシートを使って振り返る。 ④OTE からフィードバック 生徒の具体的に良かった点を挙げて、他者参照を行えるようにする。 ③発表と質疑応答 それぞれの発表に発表者からの問いかけと発表後に質疑応答の時間を設ける。 ②発表準備 ①授業の流れと目標の確認 ルーブリックを再度確認する。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第7時	帯活動なし	**〈中間発表〉** **発表本番に向けての中間発表を行う。**	【話すこと（発表）】 マンダラート、マッピングをもとに自分の考えを整理し、既習の表現を使って自分の考えを理由をつけて伝えることができる。	■ 中間発表を通して、伝える順番を整理しながら自分の意見や考えを再考する。 ⑦振り返り 他の生徒の発表を聞いて、自分の発表に活かせることを探す。 ⑥本番に向けた自己調整 ⑤グループメンバーからのフィードバック ④４人グループでの中間発表 ③フィードバックに必要なメモの取り方（付箋）の説明 ②発表準備

			自己調整を図り、自分の発表の改善をすることができる。	伝える順番を整理しながらナンバリングを行う。 ①本番のルーブリック確認 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第６時 本時	基本文トレーニング (Lessson5) Q&A practice	最終の単元目標である「自分の幸せとは何？」に向けて「自分がどのようなときに幸せを感じるのか」について考えを深める。	【話すこと（発表)・(やりとり)】 マンダラート、マッピングをもとに自分の考えを整理し、既習の表現を使って自分の考えを理由をつけて伝えることができる。	■ アンケート結果を提示し友達の意見から自分の考えを深める。 ⑨振り返り ⑧新しいグループに作り替え、再度スピーチを行う。 ⑦自己調整 ⑥のスピーチで他者参照を行い、相手の良いところを真似したり、言いたかったが言えなかった部分の練習を行う。その際、自分のマッピングに青色のペンで追加する。 ⑥グループでスピーチを行う。 作戦タイムを設けて、取り組ませる。 ⑤マッピングを使い質疑応答 ペアで質疑応答を行う。ペアから質問されたワードは赤色で追加する。 ④マッピング ③Teacher Talk 第４時で実施したアンケート結果を提示し、自分の幸せについて考えを深めさせる。 ②Q&A practice ①基本文トレーニング 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第５時 TT	基本文トレーニング (Lessson5) Q&A practice	ALT の先生のフィリピンでの幸せな生活についての話を聞き、「自分の幸せ」や日本の文化との共通点や相違点を考えることができる。	【話すこと（やりとり)】 マンダラート、マッピングをもとに自分の考えを整理し、既習の表現を使って質問することができる。	■ 自分の幸せな時間についての考えを深めるために、ALT の先生の幸せな時間や出身国の生活について質問する。 ⑦振り返り 「自分の幸せ」に関してさまざまな考えがあることや、フィリピンと日本の文化の共通点や相違点に気付かせる。 ⑥グループごとに ALT に質問する。 ⑤グループで ALT に質問したい内容を考える。 ④マンダラート フィリピンでの生活について ALT の先生に聞きたいことを書き出す。 ③Teacher Talk ALT からフィリピンでの幸せな生活の過ごし

				方についてパワーポイントを使って説明する。 ②Q&A practice ①基本文トレーニング 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第４時	基本文トレーニング (Lessson5) Q&A practice	最終の単元目標である「自分の幸せとは何？」に向けて「自分がどのようなときに幸せを感じるのか」について考え、伝えることができる。	【話すこと（発表)・(やりとり)】 マンダラート、マッピングをもとに自分の考えを整理し、既習の表現を使って自分の考えを理由をつけて伝えることができる。	■ Teacher Talk を聞いて、自分の幸せな時間について考えを伝え合う。 ⑩振り返り ⑩「自分の幸せ」についてのアンケート（Forms）を入力する。 ⑨新しいグループに作り替え、再度スピーチを行う。 ⑧自己調整 ⑦のスピーチで他者参照を行い、相手の良いところを真似したり、言いたかったが言えなかった部分の練習を行う。その際、自分のマッピングに青色のペンで追加する。 ⑦グループでスピーチを行う。 作戦タイムを設けて、取り組ませる。 ⑥マッピングを使い質疑応答 ペアで質疑応答を行う。ペアから質問されたワードは赤色で追加する。 ⑤マッピング ④マンダラート ③Teacher Talk OTE の幸せだった１日の過ごし方について話し、どのような時に幸せを感じるのかを考えさせる。 ②Q&A practice ①基本文トレーニング 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第３時	基本文トレーニング (Lessson5) Q&A practice		【聞くこと】 本文の内容を聞き、日本の漫画が海外ではどのように伝えられているかを聞き取ることができる。 【読むこと】 本文を読み、日本の漫画が海外ではどのように	■ ALT の先生にわかりやすく bento を伝えるために関係代名詞 which, who, that を使ってどのように伝えたらよいか考える。 ⑦振り返り ⑥“bento”を自分ならどのように説明するのかを個人で考え、発表する。 ⑤デジタル教科書を使って音読練習を行う。 （リピート→個人練習→オーバーラッピング→シャドーイング→４０秒計測） ④本文に関する質問に答える。(個人→ペア) ③新出単語の意味を確認し、発音練習を行う。 ②Q&A practice

<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>伝えられているかの概要をとらえることができる。
【話すこと】
本文を４０秒で音読することができる。</td><td>①基本文トレーニング

<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>第
２
時</td><td>基本文トレーニング
（Lessson5）
Q&A practice</td><td>Lesson5 Scene2
(P.57)
本文音読練習・
内容理解</td><td>【聞くこと】
本文の内容を聞き、日本のオノマトペが海外ではどのように伝えられているのかを聞き取ることができる。
【読むこと】
本文を読み、日本のオノマトペや日本語の表現が海外ではどのように伝えられているかの概要をとらえることができる。
【話すこと】
本文を４０秒で音読することができる。</td><td>■ 物や人の説明をするときは関係代名詞 which, who, that を使うことを理解する。
⑥振り返り
⑤デジタル教科書を使って音読練習を行う。
（リピート→個人練習→オーバーラッピング→シャドーイング→４０秒計測）
④本文に関する質問に答える。（個人→ペア）
③新出単語の意味を確認し、発音練習を行う。
②Q&A practice
①基本文トレーニング

<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>第
１
時</td><td>基本文トレーニング
（Lessson5）
Q&A practice</td><td>ルーブリック
単元・学習内容</td><td></td><td>■ 本単元で使うルーブリックや基本文を確認することで、学習の見通しをもたせる。
④学習内容の紹介
③ルーブリックの説明
②Q&A practice
単元の最後まで使う Q&A をまとめて出す。
①基本文トレーニング
単元の最後まで使う基本文をまとめて出す。
<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table></td></tr>
</table>

３．授業の展開について

３－１．第１１時の展開（全１１時間中の１１時間目）

学習内容 （学習形態）	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	OTE	ALT	
	単元テストの勉強を促す。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
	本時のゴールを伝える。		To try unit test(Lesson5).
単元テスト （２０分間）	集中してテストに取り組ませる。		◇机間指導。 ◆書くこと【知識・技能/思考・判断・表現】
フィードバック （単元全体）	本単元の生徒の感想を聞く（日本語でよい)。 教師の感想も伝え、次の単元へ繋げる。		◇次の単元へ繋げるために、本単元での頑張りを褒める言葉を投げかけるようにする。
Lesson6 基本文ワークシートを配布	次の単元への導入を行う。		◇生徒が理解できていることを確認しながら進める。
振り返り	振り返りシートに記入させ、回収する。		◆【主体的に学習に取り組む態度】

３－２．第１０時の展開（全１１時間中の１０時間目）

学習内容 （学習形態）	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	OTE	ALT	
音読練習 （個人）	音読練習を促す。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
	本時のゴールを伝える。		To try reading test and writing.
音読練習 p.57 か p.59 のどちらか選んでおく。	デジタル教科書などで最終の音読練習をさせる。		◇机間指導。
音読テスト ライティング 「自分にとっての幸せとは？」 単元テストの勉強	１人ずつ順番に音読テストを行う。 タイマーで４０秒を計測。 一度もつまらずに、間違えずに読むことが目標。	生徒の書いた英作文に目を通し、ルーブリックに沿って評価を行う。 細かい評価基	◇ライティングは授業終了までに自分の考えを書き終えるよう促す。 ◇ライティングが終了した生徒は用紙を提出してから単元テストの勉強へ移ることを伝える。 ◆話すこと【知識・技能】 ◆書くこと【知識・技能/思考・判断・表現】

	詰まった時点、間違えた時点で終了とする。 音読テスト中はライティングに取り組ませる（用紙を配布する)。 ライティングが終了した生徒には単元テストの勉強に取り組ませる。	準はOTEと相談しながら行う。	
振り返り	振り返りシートに記入させる。		

３－３．第９時の展開（全１１時間中の９時間目）

学習内容 （学習形態）	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	OTE	ALT	
音読練習 （個人）	音読練習を促す。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
基本文トレーニング Q&A practice	タイマーで２分間を計測。 生徒が奇数の場合、OTEがペアに入る。		机間指導。
	本時のゴールを伝える。		To understand the grammar of this lesson.
文法の整理・復習	関係代名詞（主格）の役割を確認する。 もう一度、基本文トレーニングで使用している関係代名詞を見ながら確認する。		◇生徒が理解できていることを確認しながら進める。
入試問題に挑戦	関係代名詞（主格）が使われている入試問題を紹介し、関連問題を解かせる。		◇机間指導。 ◇生徒のサポートをする。 ◆書くこと

振り返り	振り返りシートに記入させる。		

３－４．第８時の展開（全１１時間中の８時間目）

学習内容（学習形態）	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	OTE	ALT	
音読練習（個人）	音読練習を促す。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
	本時のゴールを伝える。		To be able to tell your friends and the teacher about your happiness in discussion.
授業の流れの確認	ルーブリックを再度確認させる。		◇生徒が理解できていることを確認しながら進める。
発表準備	最終練習をさせる。 質問内容も考えさせる。		◇机間指導。 ◇生徒のサポートをする。
本発表と質疑応答	それぞれの発表に発表者からの問いかけと発表後に質疑応答の時間を設ける。 友達の考えをメモするよう指示する。		◇生徒のサポートをする。 ◇より相手に伝わる表現になるようにディスコースマーカーを示し、活用できるようアドバイスする。 ◆話すこと（発表）（やりとり） ※記録に残す評価は行わない。ただし、活動の状況を観察し、指導に活かす記録は残す。活動だけに留まらないよう留意する。
フィードバック	生徒の具体的に良かった点を挙げて、他者参照を行えるようにする。		◇ジェスチャーだけではなく、内容的に素晴らしいものを意識的に取り上げる。
振り返り	振り返りシートに記入させる。		◇単元前と単元後を比較して、何ができるようになったのか、次の課題は何かをワークシートを使って振り返らせる。

３－５．第７時の展開（全１１時間中の７時間目）中間発表

学習内容（学習形態）	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	OTE	ALT	
音読練習（個人）	音読練習を促す。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
	本時のゴールを伝える。		To tell your opinion about your happiness to your friends. This is midterm discussion.

本番のルーブリックの確認	ルーブリックを確認させる。		◇生徒が理解できていることを確認しながら進める。
発表準備	「自分にとっての幸せ」について考えをまとめさせる。 質問内容も考えさせる。		◇机間指導。 ◇生徒のサポートをする。 ◇iPad で未習の単語については調べさせ、マッピングシートにメモを取らせる。 ◇可能な限り知っている表現で伝えられるよう教師や友達と考えさせる。
フィードバックに必要なメモの取り方（付箋）の説明	良かった点と改善点で付箋の色を変える。		◇生徒が理解できていることを確認しながら進める。
中間発表（グループ）	生徒の意見に積極的に反応しながら前向きな声掛けをする。 グループ内で質疑応答を行う。 グループで質問された内容は赤色で情報を追加する。		◇机間指導。 ◇生徒のサポートをする。 ◇より相手に伝わる表現になるようにディスコースマーカーを示し、活用できるようアドバイスする。 ◆話すこと（発表）（やりとり）
フィードバック（グループ）	グループ内で付箋を交換し、互いにフィードバックさせる。		◇机間指導。 ◇生徒のサポートをする。
フィードバック（全体）	グループでの発表を見て回り、良かった発表を取り上げる。 良かった点と合わせて改善点も伝える。		◇ジェスチャーだけではなく、内容的に素晴らしいものを意識的に取り上げる。
本番に向けた自己調整	本発表に向けて自己調整を図る時間を設ける。		◇新たに追加した意見や、他者参照により自分の意見に取り入れる意見は、マッピングシートに青色のペンで追加させることで、自分の考えをさらに深めせる。
振り返り	振り返りシートに記入させる。		◇他の生徒の発表を聞いて、自分の発表に活かせることを考えさせる。

３－６．第６時の展開（全１１時間中の６時間目）研究授業

学習内容 （学習形態）	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	OTE	ALT	
音読練習 （個人）	音読練習を促す。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
基本文トレーニング Q&A practice	タイマーで２分間を計測。 生徒が奇数の場合、OTE がペアに入る。		机間指導。
	本時のゴールを伝える。		To listen to the survey results and think about what's important to you in order to be happy.
Teacher Talk	例）Look at this. This is the survey result about "What is happiness for you?". You gave me many answers. For example, family, friends, free time, money, dreams…. Why are there so many different answers?		◇本単元の目標を伝え、関心を持たせる。 ◇アンケート結果より、さまざまな回答（考え）があることに気付かせる。
マッピング	アンケート結果をもとに考えを深めさせる。		◇机間指導。 ◇生徒のサポートをする。
マッピングの共有・質疑応答 （ペア）	マッピングシートを使って自分の考えを共有し、お互いに質疑応答させる。 ペアに質問された内容は赤色で情報を追加する。		◇考えを深めることが難しい生徒に対しては、OTE が対話することで一緒に考えを深められるようにする。 ◆話すこと（やりとり）
作戦タイム （個人→ペア）	スピーチの練習をさせる。		◇iPad で未習の単語については調べさせ、マッピングシートにメモを取らせる。

	1)When I～, I feel happy. 2)Because…. 3)自分の意見を加える。		◇可能な限り知っている表現で伝えられるよう教師や友達と考えさせる。
グループスピーチ	グループでのスピーチに取り組ませる。 グループ内で質疑応答を行う。		◇より相手に伝わる表現になるようにディスコースマーカーを示し、活用できるようアドバイスする。 ◆話すこと（発表）（やりとり）
フィードバック	グループスピーチを見て回り、良かった発表を取り上げる。		◇ジェスチャーだけではなく、内容的に素晴らしいものを意識的に取り上げる。
自己調整	グループスピーチ２に向けて自己調整を図る時間を設ける。		◇新たに追加した意見や、他者参照により自分の意見に取り入れる意見は、マッピングシートに青色のペンで追加させることで、自分の考えをさらに深めさせる。
グループスピーチ２	グループでのスピーチに取り組ませる。 グループ内で質疑応答を行う。		◆話すこと（発表）
振り返り	振り返りシートに記入させる。		◇生徒の良い気付きを共有する。

３－７．第５時の展開（全１１時間中の５時間目）TT 授業

学習内容 （学習形態）	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	OTE	ALT	
音読練習 （個人）	音読練習を促す。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
基本文トレーニング Q&A practice	生徒が奇数の場合、OTE がペアに入る。	タイマーで２分間を計測。	机間指導。
	本時のゴールを伝える。		To listen to ALT's story and think about times when you feel happy.
Teachers Talk		第３時で生徒が書いた”bento”の説明の感想を伝えてからスタートする。 例）I feel happy	◇ALT の先生の幸せと感じる生活について関心を持たせる。

		when I read manga. Some of you may say, “I feel happy when I read manga” but others may say “No”. You told me about bento. Do you feel happy when you eat bento? So, let’s think and talk about “When do you feel happy?” with your friends. Later, tell me your answer.	
マンダラート	ワークシートを配布。 フィリピンでの生活についてALTの先生に聞きたいことを書き出させる。	生徒観察。	◇机間指導。 ◇生徒のサポートをする。
ALTに質問したい内容を考える。(グループ)	マンダラートをもとに質問を考えさせる。	生徒観察。	◇机間指導。 ◇生徒のサポートをする。
ALTに質問する。(グループ)	グループごとにALTに質問させる。	生徒からの質問に答える。	◇質問に対する答えは赤色で情報を追加させることで、「自分の幸せ」についての自分の考えをさらに深めさせる。 ◆話すこと（やりとり）
フィードバック	「自分の幸せ」に関してさまざまな考えがあることや、フィリピンと日本の文化の共通点や相違点に気付かせる。	良かった発表を取り上げる。	
振り返り	振り返りシートに記入させる。		◇生徒の良い気付きを共有する。

３－８．第４時の展開（全１１時間中の４時間目）

学習内容 （学習形態）	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	OTE	ALT	
音読練習 （個人）	音読練習を促す。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
基本文トレーニング Q&A practice	タイマーで２分間を計測。 生徒が奇数の場合、OTE がペアに入る。		机間指導。
	本時のゴールを伝える。		To listen to OTE's story and think about times when you feel happy.
Teacher Talk	例）I like eating sweets. So, when I eat chocolate, I feel happy. And I like talking with my family and friends. When I have a good time with them, I feel happy. So, I have a question. When do you feel happy?		◇本単元の目標を伝え、関心を持たせる。
マンダラート	ワークシートを配布。 「自分がどのようなときに幸せを感じるのか」を考えさせる。		◇机間指導。 ◇生徒のサポートをする。
マッピング	マンダラートをもとに考えを深めさせる。		◇机間指導。 ◇生徒のサポートをする。
マッピングの共有・質疑応答 （ペア）	マッピングシートを使って自分の考えを共有し、お互いに質疑応答させる。		◇考えを深めることが難しい生徒に対しては、OTE が対話することで一緒に考えを深められるようにする。 ◆話すこと（やりとり）

	ペアに質問された内容は赤色で情報を追加する。		
作戦タイム	スピーチの練習をさせる。 1)When I～, I feel happy. 2)Because…. 3)自分の意見を加える。		◇iPad で未習の単語については調べさせ、マッピングシートにメモを取らせる。 ◇可能な限り知っている表現で伝えられるよう教師や友達と考えさせる。
グループスピーチ	グループでのスピーチに取り組ませる。 グループ内で質疑応答を行う。		◇より相手に伝わる表現になるようにディスコースマーカーを示し、活用できるようアドバイスする。 ◆話すこと（発表）（やりとり）
フィードバック	グループスピーチを見て回り、良かった発表を取り上げる。		◇ジェスチャーだけではなく、内容的に素晴らしいものを意識的に取り上げる。
自己調整	グループスピーチ２に向けて自己調整を図る時間を設ける。		◇新たに追加した意見や、他者参照により自分の意見に取り入れる意見は、マッピングシートに青色のペンで追加させることで、自分の考えをさらに深めさせる。
グループスピーチ２	グループでのスピーチに取り組ませる。 グループ内で質疑応答を行う。		◆話すこと（発表）（やりとり）
アンケート入力	「自分の幸せ」についてのアンケート（Forms）に入力させる。		
振り返り	振り返りシートに記入させる。		◇生徒の良い気づきを共有する。

３－９．第３時の展開（全１１時間中の３時間目）

学習内容 （学習形態）	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	OTE	ALT	
音読練習 （個人）	音読練習を促す。		◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
基本文トレーニング	タイマーで２分間を計測。		机間指導。

Q&A practice	生徒が奇数の場合、OTE がペアに入る。		
	本時のゴールを伝える。		To understand the story of Scene2 (P.59) and practice reading.
新出単語の確認・発音練習	リピートさせる。		◇生徒が正しく読めていることを確認しながら進める。
本文の内容理解（個人→ペア）	本文に関する質問をする。		◇内容については生徒とやりとりしながら理解させるよう努める。 ◆聞くこと ◆読むこと
音読練習	音読練習をさせる。 ①リピート ②個人練習 ③オーバーラッピング ④シャドーイング ⑤４０秒計測		◇本文を４０秒で読めるように促し、練習させる。 ◇机間指導。 ◆話すこと
“bento”を自分ならどのように説明するかを考える。 (個人→グループ→全体)	物や人を説明するときは関係代名詞（that,which（物）,who（人））を使うことに触れる。 例を示し、空欄に自分なら何を入れるかを考えさせ、書かせる。 “Bento is_ (　　) which (　　).”	授業終了後、生徒の書いた弁当の説明を読み、感想を考えておく。（イングリッシュボードに掲示するなど)	◇難しい生徒に対しては、OTE が対話することで一緒に考えられるようにする。 ◆書くこと
振り返り	振り返りシートに記入させる。		

３－10. 第２時の展開（全１１時間中の２時間目）

学習内容 (学習形態)	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】(評価方法)
	OTE	ALT	
			◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。

基本文トレーニング Q&A practice	タイマーで２分間を計測。 生徒が奇数の場合、OTE がペアに入る。		机間指導。
	本時のゴールを伝える。		To understand the story of Scene2 (P.57) and practice reading.
新出単語の確認・発音練習	リピートさせる。		◇生徒が正しく読めていることを確認しながら進める。
本文の内容理解（個人→ペア）	本文に関する質問をする。		◇内容については生徒とやりとりしながら理解させるよう努める。 ◆聞くこと ◆読むこと
音読練習	音読練習をさせる。 ①リピート ②個人練習 ③オーバーラッピング ④シャドーイング ⑤４０秒計測		◇本文を４０秒で読めるように促し、練習させる。 ◇机間指導。 ◆話すこと
振り返り	振り返りシートに記入させる。		

３－11. 第１時の展開（全１１時間中の１時間目）

学習内容 （学習形態）	教師の役割		◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
	OTE	ALT	
			◇準備ができていない生徒には声をかけ、スムーズに授業に入れるよう促す。
授業開始	本時のゴールを伝える。		To learn about the content of Lesson5.
基本文ワークシートの解説	基本文ワークシートの重要箇所を説明する。		◇内容については生徒とやりとりしながら理解させるよう努める。
基本文ワークシートの音読練習	リピートさせる。		◇生徒が正しく読めていることを確認しながら進める。
基本文トレーニング	タイマーで２分間を計測。 生徒が奇数の場合、OTE がペアに		◇机間指導。

	入る。		
Q&A ワークシートの解説	Q&A ワークシートを配布し、重要箇所を説明する。		◇内容については生徒とやりとりしながら理解させるよう努める。
Q&A ワークシートの音読練習	リピートさせる。		◇生徒が正しく読めていることを確認しながら進める。
Q&A practice	タイマーで２分間を計測。 生徒が奇数の場合、OTE がペアに入る。		◇机間指導。
ルーブリックの説明	ルーブリックを配布し、説明する。		
学習内容の紹介	本単元では関係代名詞（主格）を使って発表を行うことを伝える。		
振り返り	振り返りシートに記入させる		

Key Sentences(Lesson5)		Class(　　)No.(　　)Name(　　)
	English	Japanese
1	I think happiness is having people **who** support me.	幸せは自分を助けてくれる人を持つことだと思う。
2	The time I spend with friends **who** understand me is my happiness.	自分を理解してくれる友達との時間は私の幸せだ。
3	I like people **who** make me smile.	私を笑顔にしてくれる人が好きだ。
4	A person **who** helps others can be happy.	周囲に手を差し伸べる人は幸せになれる。
5	I want to enjoy something **that** helps me relax.	自分をリラックスさせてくれることを楽しみたい。
6	I want to be a person **who** never gives up.	絶対にあきらめない人になりたい。
7	Happiness is having a dream **that** gives me hope.	幸せは希望を与えてくれる夢をもつことだ。
8	I thank the people **who** care about me.	私のことを気にかけてくれる人に感謝する。
9	I want a job **that** helps other people.	人のために働く仕事につきたい。
10	I enjoy reading books **that** teach me important things.	大切なことを教えてくれる本を読むのを楽しんでいる。
11	I respect people **who** work hard for their goals.	自分の目標にむかって一生懸命頑張る人を尊敬する。
12	I like places **that** make me feel peaceful.	心がやすらぐ場所が好き。
13	People who have good relationships are happy.	良い関係を築いている人は幸せだ。
14	I want to be a person **who** makes others happy.	だれかを幸せにする人になりたい。
15	Happiness is finding something **that** I really love.	幸せは自分が本当に好きなものを見つけることだ。
16	My favorite music gives me energy.	お気に入りの音楽が自分にエネルギーをくれる。

＊下線部のところを変えて言うことができます。

〇達成の記録

友達とやり取りをして、答えられた回数を書こう。

１回目		２回目		３回目		４回目		５回目	
６回目		７回目		８回目		９回目		１０回目	
１１回目		１２回目		１３回目		１４回目		１５回目	

合計	個

Q&A　practice⑥		Class(　)No.(　)Name(　)
	Question	Answer
1	What is happiness for you? （あなたにとって幸せとは何ですか？）	Spending time with my family makes me happy. （家族と一緒に時間を過ごすことは私を幸せにします。）
2	Are people **who** have many friends happier? （たくさんの友達がいる人はより幸せですか？）	Yes, they are. / No, they aren't. （はい、そうです。/いいえ、違います。）
3	Who is a person **who** makes you happy? （あなたを幸せにする人は誰ですか？）	My best friend makes me happy. （親友は私を幸せにします。）
4	Do you know someone **who** always helps others? （いつも周囲を助ける誰かを知っていますか？）	Yes, I do. He(She) is ___. / No, I don't. （はい、知っています。彼は___です。/いいえ、知りません。）
5	What is something **that** gives you energy? （あなたにエネルギーをくれるものは何ですか？）	My favorite music gives me energy. （お気に入りの音楽が私にエネルギーをくれます。）
6	What is a place **that** makes you relaxed? （あなたをリラックスさせる場所は何ですか？）	The park near my house makes me feel relaxed. （自宅近くの公園は私をリラックスさせます。）
7	What is your future goal? （あなたの将来の目標は何ですか？）	To ____. / To be a _____. （_____することです。/_____になることです。）
8	What kind of people do you respect? （あなたが尊敬する人はどんな人ですか？）	I respect people **who** are honest. （私は正直な人を尊敬します。）
9	Who helps you when you are in trouble? （トラブルに巻き込まれたとき、だれがあなたを助けますか？）	My friends do(es). （友達です。）
10	Do people **who** help others become happier? （誰かを幸せにする人はより幸せになりますか？）	Yes, they do. / No, they don't. （はい、なります。/いいえ、なりません。）
11	What kind of job can make people happy? （人々を幸せにすることができる仕事は何ですか？）	A job **that** helps others. （誰かを助ける仕事です。）
12	What is something **that** you thank for? （あなたが感謝しているものは何ですか？）	I thank the people **who** support me. （私は自分を助けてくれる人に感謝している。）
13	Do you have a dream that makes you excited? （あなたはわくわくする夢を持っていますか？）	Yes, I do. / No, I don't. （はい、持っています。/いいえ、持っていません。）
14	Is money something **that** brings happiness? （お金は幸せももたらすものですか？）	Yes, it is. / No, it isn't. （はい、そうです。/いいえ、違います。）
15	Can people be happy without having their goals? （人々は目標を持たずに幸せになることができますか？）	Yes, they can. / No, they can't. （はい、できます。/いいえ、できません。）

〇達成の記録

友達とやり取りをして、それぞれのポイントを記入しよう。

	答えた回数	＋1 文	聞き返し		答えた回数	＋1 文	聞き返し
1 回目				2 回目			
3 回目				4 回目			
5 回目				6 回目			
7 回目				8 回目			
9 回目				10 回目			
						合計	個